

育てる、食べる、活かす、をつなぎ 『共生』を実践する牧場で雇用創出

一般社団法人 さとうみファーム



代表理事
金藤 克也 さん
かねとう かつや

南三陸町歌津の海に面した小さな谷間に、さとうみファームの牧場があります。45 頭ほどの羊が元気に走り回り、子ども達が羊たちと触れ合える機会づくりや羊毛を使った糸紡ぎワークショップ、目の前の浜で体験できるシーカヤックツアーなどを行っています。

震災後、南三陸の被災者を支援しようと県外から集まったボランティア仲間とさとうみプロジェクトを立ち上げ、子ども達が少しでも笑顔になれるようにとイベントを中心に活動していました。代表の金藤克也さんは、わかめ削ぎの手伝いをしていた時、大量のわかめの茎を捨てている浜の現状を知り、地元産業を活性化して復興を目指す為に「わかめの茎を飼料とした羊のブランド化」を思いつきました。その後は親子が安心して遊べる場づくりの活動をしながら、仲間集めに奔走し、羊の飼育の知識とスキルを学ぶために宮城県黒川郡大郷町にある羊牧場に協力頂き、実際にわかめの茎を飼料とした羊を育て、仲間とともに日々試行錯誤をしながら構想の実現に向けてチャレンジをし続けています。

ボランティアで入った浜で見た現実と可能性

震災当時、神奈川県で会社を経営していた金藤さんは、県外から仲間とともに定期的に南三陸を訪れ、2011 年 9 月にさとうみプロジェクトを立ち上げました。

様々な活動をする中、翌年の 2 月頃、漁業支援としてわかめの加工場の建設やわかめ削ぎなどの手伝いをしていた時、大量のわかめの茎を捨てている浜の現状を知りました。それと同時に、オーストラリア原産の塩分を含んだ植物「ソルトブッシュ」を食べて育った羊「ソルトブッシュラム」というブランド羊の存在を知り、一つのアイデアが閃きました。それが今の活動の原点であり、今も事業可能性を追い続けている「わかめを飼料とした羊のブランド化」構想が生まれた瞬間です。

2012 年 6 月に一般社団法人となり、この構想を温めな

がら、子ども達の遊びを中心にした活動を続けていました。そして 2013 年 1 月には、南三陸町歌津地区に子どもの遊び場をつくるプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングや助成金にチャレンジしています。いずれはかさ上げ工事でなくなってしまう地域と分かってはいたものの、子ども達が自由にそして安全に楽しめる場所は今こそ必要だとして実現に踏み切り、2013 年夏、子ども達の遊び場「mocomoco 広場」をオープンしました。

「羊」を使った地域活性化と新規産業

構想を思いついた直後に様々な情報収集をする中で、共同研究の可能性を探るべく大学の先生に相談を持ちかけていた動きが功を奏し、2013 年 2 月、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の被災地発の新たなイノベーション創出により復興を促進するために設置した



▲糸紡ぎ体験の様子



▲羊毛刈り体験の様子

JST 復興促進センターの復興促進プログラムに、宮城大学食産業学部と一緒に応募した「被災地環境を生かしたブランド羊肉の創製」の研究が採択されたのです。大郷町で羊を飼ってソルトブッシュ（塩害地でも育つハーブの一種）や塩を含んだ海藻を餌にして羊を飼育する試みが始まり、およそ 2 年間続きました。

その秋には民間の助成金を得たことで、羊を飼う牧場のビニルハウスやプレハブの建設、仲間の人件費も出せる環境ができ、いよいよ「わかめを飼料にした羊のブランド化」の構想実現に向けて動き出したのが 2014 年元旦。大郷町の牧場から羊 24 頭が南三陸町歌津にやってきました。

その年の 12 月には『南三ラム』として出荷するに至りましたが、羊の飼育は思っていたようにはいかず、最初の 1 年間は試行錯誤と失敗の連続だったと言います。

一方、同年 7 月「子ども夢牧場」を開設し、子ども達の遊び場や体験などのサービスメニューも充実させていきました。目の前に広がる浜で行うシーカヤックツアー、羊毛を使ったワークショップ、羊肉のシーサイドバーベキューなど、スタッフのアイデアを元にした様々なメニューが年々増え、必要な設備も自らの手で整備をしていきました。雇用創出の場として若手のスタッフを採用し、新しい視点で、手づくりのサービスを生み出し続けています。

大学との共同研究からさらに独自の研究・実践へ

JST の復興促進プログラムに採択されたことが、その後の展開に大きく影響し、2015 年 10 月からの 3 年間、JST の社会技術開発研究センターが募集した「持続可能な多世代共創社会のデザイン」のプロジェクトに採択されました。今度は羊肉の研究だけではなく、「羊と共に多世代が地域の資源を活かす場の創生」をテーマに宮城大学食産学部と事業構想学部、帝京科学大学生命環境学部の協力を得て、金藤さんが研究者としてじっくり取り組んでいます。

今回は、宮城県南三陸町で羊の牧場を核として地域の

人々が協働し、高齢者の有する伝統技術や主産業の問題を新たな製品開発に活かす取り組みです。これを通して多様な雇用を創出し、子どもから高齢者、障害者など、多世代・多様な人々が役割を持ってコミュニティに参画し、自然との共生を図りながら新たな伝統や技術を生み出していき、持続可能な地域のモデル構築を目指しています。

ここから本番、10 年後を見据えて

金藤さんは、この 3 年間の共同研究が構想実現につながるという算段がついたこと、そして、役割と責任を持ち、共にチャレンジをする仲間の真剣さに自らも覚悟を持って応えようと、経営をしていた会社を閉鎖し、2 年前に南三陸に移住しました。

法人の事業収入は、頭数が少ないながらもわかめ羊肉を県内外のレストランや精肉店に出荷して得ていますが、まだまだ安定した利益には繋がっていません。これからも助成金や補助金を受けるチャンスはまだありますが、現在のファームの規模を守るための人件費や事業費をいつまでも復興支援の助成金などで賄っていくわけにはいきません。今後、収入の確保には羊の頭数確保が欠かせないため、来年 6 月から新たに登米に生産牧場を作る予定のほか、羊毛を使った糸紡ぎやそれらを加工した商品の開発、生産体制の整備も構想しています。

そして、「将来的には、羊と触れ合える観光牧場とすることで、自立した経営と地元雇用、わかめ漁師との共存共栄に発展させていきたい」という目標に向かい、金藤さんは次の可能性を見据えています。

一般社団法人 さとうみファーム

<問合せ先>

〒988-0452 宮城県本吉郡南三陸町歌津町向22

TEL ▶ 0226-29-6370

E-mail ▶ satoumifarm@gmail.com

URL ▶ http://satoumifarm.org